

「平成 21 年度授業改善ミーティング」実施報告

大森 肇, 武田 剛, 小山宏之, 河合季信, 橘 直隆

背景

体育センターでは教員 FD の一環として、平成 15 年度より「共通科目『体育』の授業に関する調査」を毎年実施してきた。これは受講学生による個々の授業・教員に対する評価が中核になっており、1) 授業の運営や指導法について、2) 授業の内容や効果について、3) 総合的な観点から、という三つの観点に基づいた 20 の設問項目から構成されている。

この 7 年間、学生の「共通科目体育」に対する評価は大変高く、20 の設問項目の内 12 項目において、6 点満点で平均 5 点前後から 5.6 点あたりを獲得してきた。特に「教員の授業に関わる知識と専門性」と「教員の授業に対する熱意や工夫」においては、極めて評価が高い。

体育センターでは、毎年集計するこれらのデータを全体統計としてだけでなく、個々の授業を担当する教員に対しても、詳細にフィードバックしている。また、通年で開講される 140 余りの科目の中から、各 20 項目別に高い評価を受けたトップ 5 を公表している。これらの営みは、おそらく各教員に対して現状認識と意識改革を促し、新たな行動変容を導いたのではないかと思われる。それは、「共通科目体育」全体として各設問項目の得点が高いというだけでなく、各項目ともほぼ毎年少しずつ上昇してきているという事実から推察される。

授業改善ミーティングの着眼点と目的

体育センターではこうした良い波及効果に着目し、これまで複数回にわたり FD 研修会（授

業改善ミーティング）を開催してきた。各研修会の開催ごとにテーマを決め、その事に関連して高い評価を受けた教員を話題提供者として、体育センター構成メンバー間で広く情報交換することで大きな成果を得ている。

これまでの流れを受けて、体育センター FD・危機管理委員会では平成 21 年度においても授業改善ミーティングを企画することとなった。そこで、平成 15 年度からのデータを俯瞰的に見てみると、各評価項目におけるトップ 5 の結果から、ある興味深い状況が浮かび上がってきた。それは、ある時期を境に急に評価得点が上昇している教員が存在するということがあった。この事実は、それらの教員が授業評価や FD を受けてきた過程で、何かに触発・啓発されて、授業内容などを改善したのかもしれないと想像させるものであった。

そこで、今回の着眼点を「授業評価を受けて、いかに改善したか」というところに設定して、2 名の体育センター教員に話題提供を依頼した。他の教員との情報交換と討論を通じて、構成メンバーの授業内容の改善と授業能力の向上を図ることが授業改善ミーティングの目的であった。

授業改善ミーティングの概要

今回の授業改善ミーティングは、平成 21 年 10 月 28 日（水）午後 3 時から 4 時 30 分まで、体育センター会議室にて行われた。話題提供者として『ゴルフ』担当の白木仁教授ならびに『フラッグフットボール』担当の松元剛准教授にご講演をいただいた。司会進行は著者の一人であ

る大森肇が務めた。参加人数は体育センター教員・準研究員 32 名の内、7 割超にあたる 23 名であった。

白木教授の発表では『ゴルフ』の学習目標、授業内容と留意点、今後の方向性などが紹介された。ゴルフの楽しみの要素をヒット技術と仲間づくりに焦点化し、工夫を凝らしているところが特筆に値する。「フォームか? 感性か?」という指導上の難しい課題についても、活発な質疑応答が展開された。また、授業方法改革の軌跡が述べられた事は、本ミーティングの意図に十分応えるものであった。

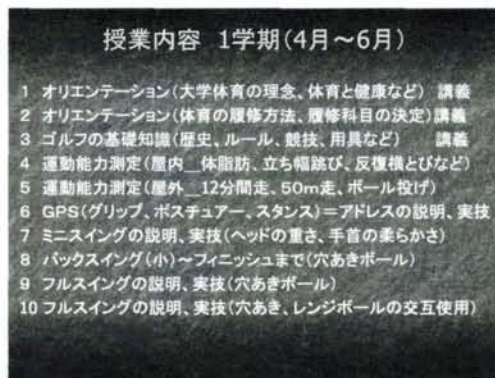
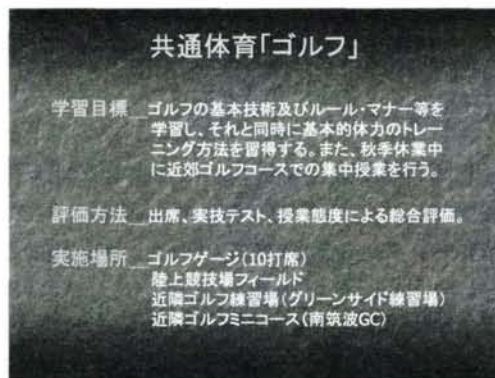
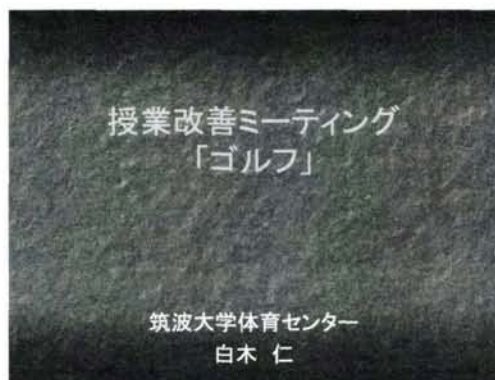
松元准教授の発表では『フラッグフットボール』の授業概要、実施上の工夫、学生による評価とその要因分析などが紹介された。教材とし

での「フラッグフットボール」により「戦術」を教え、その体育的意義を 1) 知的ゲームである、2) 観衆を育てる、3) スポーツ文化を醸成する、という事に置いている点が特徴的である。「学生が戦術を学ぶ内に、必要な技術が身についてくる」というプロセスは大変興味深く、参加者との間に議論を呼び起こした。

両先生の充実したプレゼンテーションにより活発な討論が交わされ、大変有意義なミーティングとなった。

*本稿は「平成 21 年度筑波大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書」に掲載した内容を修正したものである。

白木仁教授のプレゼンテーション資料



授業内容 2学期(9月～11月)

- 11 アドレス、スイングの復習(穴あきボール)
- 12 フルスイングの実技(穴あき、レンジボールの交互使用)
- 13 アプローチショットの実技(5～20ヤード)
- 14 アプローチショットの実技(5～40ヤード)
- 15 バターの説明と実技(レンジボール、ゴルフゲージにて)
- 16 フィールド内でのミニコース実技及びルール・マナーの説明
- 17 フィールド内でのミニコース実技及びルール・マナーの習得
- 18 バター、フルスイングの実技(レンジボール、ゴルフゲージにて)
- 19 練習場でのスイング実技
- 20 ミニコースでの実習のためのルール・マナー・エチケット講義
集中 ミニコース実習(秋休休業中、9H)

授業内容 3学期(12月～2月)

- 21 フィールド内でのミニコース実技(個人戦)
- 22 フィールド内でのミニコース実技(チーム戦)
- 23 フィールド内でのミニコース実技(クリスマスコンペ)
- 24 フルスイングの完成(穴あきボール)
- 25 フルスイングの完成(ウッドクラブ、レンジボール)
- 26 練習場でのスイングの実技又は、健康に関する講義
- 27 ゴルフトレーニングⅠ(ストレッチング)
- 28 ゴルフトレーニングⅡ(エンデュランストレーニング)
- 29 ゴルフトレーニングⅢ(ストレングストレーニング)
- 30 ゴルフの楽しみ方講座(授業のまとめ)

授業の取り組み

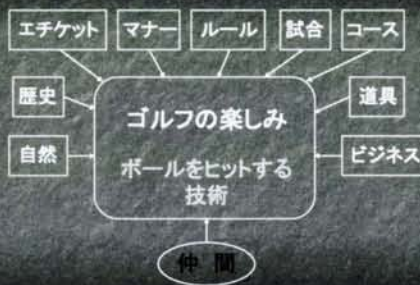
問題点

- 1) 授業時間(75分)の短さ
- 2) 3学期(12月から2月)の寒さ
- 3) その他

良い点

- 1) 人工芝のゴルフゲージ(10打席、雨天OK)
- 2) 陸上競技場フィールド内での授業
- 3) 受講学生の中にゴルフ部員を入れる
- 4) 携帯電話(ムービー)の活用
- 5) 練習場、ミニコースが近い(15分ほど)
- 6) 公開講座(3回/年)を同時に実施しているので、道具は十分にある。
- 7) その他

ゴルフの楽しみの要素



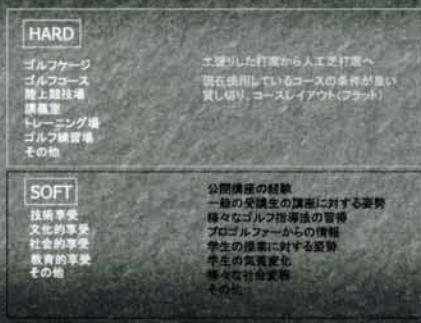
ゴルフの授業から獲得できること

- 1) ボールを正しくヒットできる 自分の身体をコントロールする
運動を通じた身体感覚を体験する
自身の打球の放物線に感応する
打球がターゲットに向かう快感を体得
- 2) ルール・マナーを知る 他人とのプレーの経験を通して
ルール・マナーの必要性を感得する
- 3) リスク管理ができる
- 4) パートナーシップを持つ
- 5) ゴルフの文化・歴史を知る ゴルフ(スポーツ)の社会・文化的
側面を知識として獲得できる
- 6) ゴルフの経済的側面を知る
- 7) その他

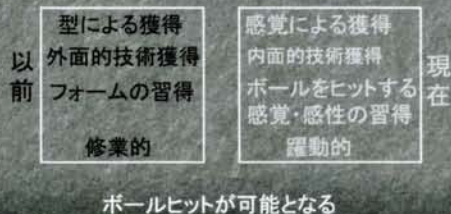
ボールをヒットするゴルフ技術

- ウッドショット
 - アイアンショット
 - アプローチショット
 - コントロールショット
 - パンカーショット
 - バター
- 授業で行うショット
- ウッドショット
 アイアンショット
 アプローチショット
 バター

ゴルフ授業変革の要因



ボールをヒットする技術(スイング)の教授方法の改革点



授業全体の改革点

エチケット、マナー、服装、遅刻、
欠席、授業態度、その他

以前

厳しく注意する

現在

ヤンワリ注意する
理由をこねる
その都度何度も注意する
罰は与えない

授業で心がけている項目

- ・毎回授業に出席する楽しさを与える
- ・クラス内の存在感を与える
- ・発達障がい学生には「どうした」と聞く
- ・体調が悪れないような学生には必ず声をかける
- ・うまくできたら褒め、次のステップへの動機付けをする
- ・次の授業内容を予告する
- ・なるべくスポーツ、身体に関するトピックスを授業内で紹介する
- ・毎回ウォーミングアップとしてグランド(400m)を1周させる
- ・うまくできない学生に対する的確なワンポイントアドバイス
- ・「コツ」を教えて、身体の不慣れさを体感させる
- ・身体メカニズムとゴルフ技術の関連性を詳しく伝える

ゴルフ授業の経験と多様なゴルフ指導の習得により可能となった教授技術

うまくできない学生に対する的確なワンポイントアドバイス
「コツ」を教えて、身体の不慣れさを体感させる
身体メカニズムとゴルフ技術の関連性を詳しく伝える

今後の授業の取り組み

- 1) 基本的には現在のパターンで実施する
- 2) 2、3学期制、単位数の変更にも柔軟に対応できるようにする
- 3) 授業効果に対する評価方法を検討する
- 4) その他

フラッグフットボール

体育センター
松元 剛

クラスの現状

- 月曜3限: 42名(男34名、女8名)
- 月曜4限: 46名(男44名、女2名)
- 火曜3限: 45名(男34名、女11名)
- 木曜3限: 40名(男27名、女13名)

晴天時: 第1サッカー場
雨天時: 第1体育館

授業概要

- 体育センターシラバス: 月3・4、火3、木3
- 授業計画
 - ・学期スタート時のマネジメントの重要性
 - ・作戦づくりの時間: 5人制と4人制
 - ・戦術学習ベース:
 - ・易しいゲームから入門ゲームへ

教材資料

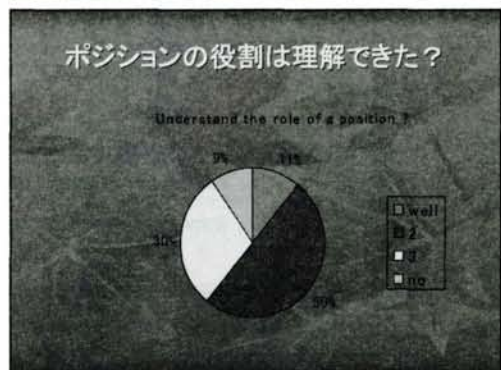
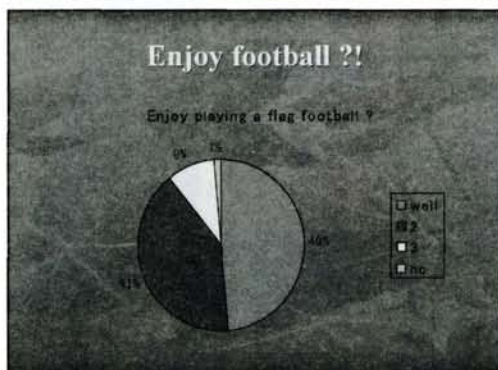
- [日本フラッグフットボール協会サイト](#)
- [筑波大学ストリーミング・サイト](#)
- [子供が育つフラッグフットボール](#)
- DVD Let's Play Flag!

評価

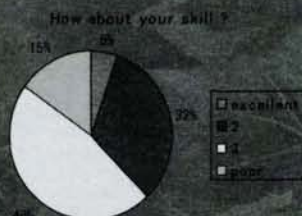
- 出席状況: 50点
- 授業時の態度: 20点
 - リーグ戦試合への取り組み方
- レポート課題: 30点
 - ・1学期: 体力測定フィードバック
 - ・2学期: 戦術行動(攻撃・守備)
 - ・3学期: 戦術学習

工夫していること

- 学生への連絡事項: [サイト](#)の活用
- リーグ戦について
 - ・チームの年間固定、チーム名の工夫
 - ・リーグ戦の実施: 1部・2部制
 - 学内対抗戦! の意識
 - ・ルールの工夫: 勝ち点制、女子得点
 - ・作戦図の作成と作戦集ファイル: 5人制と4人制
 - ・試合結果のフィードバック
- 千葉工業大学との対抗戦: 大学連携授業の可能性
複数の大学による共同教育プロジェクト



技術はうまくいった？！



楽しめた理由は？

- 作戦を考えること
- 戦術的なプレーの成功
- チームプレー
- 仲間づくり

球技スポーツ⇒戦術的行動 戦術的気づきとパフォーマンスの向上



体育の授業の中で 戦術を教えることの必要性

- スポーツは単なる力勝負や技術勝負ではなく、知的なゲームである。技術の使い方が分からなければ勝負にならない。したがって、スポーツを楽しむには、戦術の理解、活用が必要になる。
- 賢いスポーツの観衆(消費者)を育てる。
- 賢い観衆が賢いプレイヤーを生み出し、生活を豊かにする良質の文化財を生み出していく。